寶

提挑新

全

神田紺屋町 堂前
三河屋幸三郎

口 9
1340

神田旅籠町壹丁目拾番地
三河屋幸三郎

閨路投挑燈序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治文庫
仁口
1.940
450
17
450
95
9950

千僧供養多年を重ねの誓願を案
あはれなりしちらを免れ給はんとのうちん く
願はくは廉人の脚下をてゝ涙のこ

洛外逸民翁祥書

或人問ひて曰く人百一生何と欲くやらんの大法ありやと 答て曰
法華経と欲く大法ありたゝ此の娑婆世界の智者の学
問ひまして仁義礼智より安らく学ぶ所なく欲く若
しこれを学ぶの大法ありや法華経に中道と
ありこれを学ぶの大法ありや法華経に中道と
知り衆生衆会より十二時中一切の人ありて然
るべき家業をとゝのへ生涯の間
暫の人命を惜の生涯の間
ひまなくよろこぶべき人は僧侶神の三者とたゞ
にあぐるを化して生滅とする者仏果菩提の根元

称べ日くは念仏三昧或は臨終日頃経法華戒行とを
ちもとめて仏像とをがみ仏像とをがみ一向専修法物用りは
夜論とをこなひ法華のほとをよみ学問ちいんぎん
ちの三毒日夜をこりとしとをもへり中あやまりとはぎは
ちひとり迷ひよりて私なくして正覚をもとめ仏法をたび
もとめ求めて法をもとめ即今あるべし仏の日来の法をもとめ
戒行もはげむべし学問もはげむべし学問をこれ本しるべき峰くうん
みんと法行をもとめ一切の事をもとめ
ちもとめをもとめ安心あらはゆるべ法華と安心の大法をもとめ
一生のあひだ本尊作あるべく法華仏と称べ人をもとめ

問て曰はかりの法とをもとめ学問とはいかなる時
ぶん法華をもとめ　答て曰むかしより学問とは
法をもとめ中ぬきしあるこの和尚の仏ひとをそなへ出くるやそれ
をもとめ学問をもとめ学問とはいかなる
相世をもとめひとけ摂取人中ひの人ぐをもとめ
て何の差のあるぞ光明ひとをもとめ法華をぞ向の学問り
ちあるこの法をもとめ調合をもとめ学問さんはり法をもも
学問の用行をもとめ学問分の　和尚のく人をもとめ
をもとめ五度七度学問をもとめ法華をもとめこの法をも
調合をもとめ法をもとめ学問をもとめ人をもとめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海をゆき山十分よてれをあくらゆうちゆくまあ意ばひいあん径
よくゆきぐ浪ゆさきあゆき歩よ
喧嘩ちて歩のちあんの口ゆ中さ怪出せ出が弥今ゆ中あろ
問く曰親とあゆさきをあんとをとこ海ゆ中たくれ。うんあんの仕ゆうが
ちをるう　答く曰酒合うんあんが出来海をゆ中くあ親をゆ
うたき海ゆ中あゆ行あゆきべそ四ゆくをとれ海をゆ町人あゆ中ば　御と
ちゆ四くれいあくくぐ行ふをちくくをと打海をゆ後とを浪ゆ
稼ぐくをいあゆ中ゆ海ゆ出ゆ中ゆ怪ゆ中ゆ右稼ゆ中ゆ怪ゆ中ゆ　怪出ちくくゆ
稼ゆ四くをとあゆ中ゆ中ゆ中

抜たいあくごとをあらぬらん孫思邈がいはく方よ歟あ
問く曰將ゝ不孝有初當せうゝ孝とひ問とゞ孫思の陳ゝ孝
ゝ孝あらはせうゝ　答く曰そなたのふうでいとゝ孝うれこゝ
者てあうゝよもうしたるのゝ孝ゝるゝでゝいとゝ孝ゝ人ハ者物の
是非仏のおわして生ゝ一不賢人ゝをあゝ孝ゝとのでゝ孝ゝそれ
有孝ゝも賢ハ者ゝいとゝ問ゝ者ゝあひとゝ孝ゝ
きゝゝ孝ゝ孝ゝ合ゝとゝ孝ゝ家門でもいうんあんの法と
たゝあんゝいとゝあうゝあてゝあを部陳の孝ひゝとゝく堂分孝見
あゝを問あうゝをとゝゝゝゝ孝ゝ孝ゝ陳ゝあうゝゆゝ初當とゝいとゝ
いとあゝこの部陳ゝ孝ゝあうゝ孝ゝ孝ゝとゝ孝ゝ孝ゝ孝ゝ

白狀とうゝかゝものゝゝゝゝいとゝあゝこゝ不孝とゝ孝ゝ孝ゝ孝ゝ
孝ゝゝ孝ゝ麻の中の文作の中の孝ゝ孝ゝのびやうゝあゝ問とうゝ
人ゝを文教あゝ孝ゝ功あうゝ孝ゝ子供のとゝ孝ゝとゝ孝ゝゝゝ
孝ゝゝ生ゝ孝ゝとゝ孝ゝ孝ゝ智ゝを孝ゝ者も問ゝ孝ゝゝ孝ゝ孝ゝその
親ゝの中ゝゝ孝ゝ孝ゝ者ゝ孝ゝゝ問とゝ孝ゝゝ孝ゝの不孝もこゝて
のゝゝゝゝゝゝゝゝ孝ゝ初當せうゝとうこゝゝ今日ゝうゝあゝ孝ゝ
て明びゝとゝゝゝのけ一切ゝと孝ゝゝ孝ゝ孝ゝの法と法ゝさゝ
やゝ孝ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちんもの　実法母のいよさてあるべき子も自然と善行よりゆとうもつる也
じどもをとる行よさたいとけくもろ法母い欲ぐぐさるる
行よるいふうよるふとをあてい法母の大法と法行もつく安楽
芸分よ信者もくぐちのくりとのぐきさもの欲よ
接ちるよるて世人た嫁のるを世よ行とい受行か親ぐる
問く日母し女房ら中ぐ恵うるる離縁せうとは法ゆとろ
ぐもも法母ぐむ川ゆうるりゆせうう　芸く日ちまとこと
法いとぐるてとぐるる母女房ぐる行よぐちよるうとふこるて
の地とるひぐりんうでるるる行とうひゆせうう女房ぐるるこの
とる行こ出されよ母し中恵うせうとるんでいとゆせぐ母

もゆこ嫁ぐ産とるう嗜せうとは法ゆせ孫ぐちるるこの
不るるとと女房ら見んるうひ母もるるぐ善行よるんるるくのんう
とる行よぐちよるうゆとすもやや女房のるうも母のぐちを法こる
るのあやゆうぐるる産一親の恵ちとるるこのるるうる呂
ゆぐい何をのく他ぐやるるる胎とけるく見んとるゆきこるるこよぐ
らぐ皆人ら利ひげよひゆとをぐ親のちゆるるくいひとをて法
ゆとる別るうみの母の大恵十月ぐる胎内とるりゆ出きるそい
さひとるの後もあつとる産の日も欲も法も命も例も打ちれて
ちくる行くのりんるんくらうれよたくるるのぐるるうぬるいとら
きるいぐも芸るのるとそぐるとんくれひとるるくてうんきん

さいはてのこうそう大因てと三ぶきく者ゆとせめのこゑ〳〵ど女房り
ゆゑ〳〵ゑ〳〵せ母のゑとこゑ〳〵めるしゑゆとりと出てこ因盗
人こゑゑとのきやこゑあこのんとあらためひ幾人女房ゑこきあつ
ても母の妻んよゑゑ〳〵ゆゑせぬゑんし合ゑゑゑゆゆ〳〵ゑゑ合ゑゑゑゆう
女房と離縁せどし今日ゑ〳〵めゑたやく者ゆとゆつゑれゑゑ〳〵く
ひ嫁母のゆとゆゑゑ〳〵ゑゑゆゑゑゑ

もはさきなる年ろうの年ろうのあるべきを浅ましきものてくもんなる
一切のてくの夫婦のまゝ世話やうせてくちあてくあんさう法者ぐくなる
法者の文字の四くまてく五ろくろくゆとろそまとまろいつぐ年く
物くゆうまてくまくまの和の嫁ゆぐつまつさせろくせる
やくいあるまるあ此のいせんとまさげくまろくあてくとこのむとえい
地獄かてくぐくなるぐの獄あ和まこでもなれまむう文なるる
ぬとうくを家でのうらぎまくのぐまるぐくなるを魂獄あれまろ
清あとあびゆとまばまるがくあどうゆてもとあひあぬ
なれぐくなるそまよいうへこのいあまりぐ物あとあのまあ
ろ和下のとゆう獄ろうなるあんまこのあやゆらでいくなる

ぬろうまるまくぐあ狂ま嫁のあんまるあぐくまあこの和尚と
まくのけ話まの時ゆさまあまとまま先ゆあろ嫁の和まゆうぬまと話
ままく一切まあまくまくとあるうぐの獄あてくでも話まくて寺まる
はくあうまあまくし嫁もまゆ法ぐくてまち人て法まは組和もあまとゆと
さまとまびくまくまちびくまま功法ままくまくゆあまの人まるる悪峰く話
ままくまくまあの安んゆまるぐ年ろうの約要てまるる約ま

老昭ぐくうぬ

問くゆ私が姑は安ろまあ名ろ
の時ゆぐまくあゆまゆまるゆまとまるぬまが話まま
名ろくまりあるかぐあ安程かんまはあまぐままこのぐまるふ

まくて曰はまあゆまと世ろま

かぜ〜つくしたまもとで先〜せんさきをまて世話かひしあり
〜くもけ〜ゆゑゆへちかくに嫁りせわ善ぐ〜ゑるあゆと世
話と合点でうゑへきこあり〜でゆ〜〜けんぐ者ゑ拍ゆうるるぐ
ゑ〜くもけ〜ゆ〜め若へ〜ゑ姑ゑ親ゑ世いぐのゆうる世話と開
てもあるくいちんがうきく善ゑよゆるぐけぐゆつく行でくゑるゑ一
女のみゆ〜ちとこの〜衣裳紅白粉ゆくい袋を絶対ゑ系絶けゆの
ゑるちゑでかゑ出て祝のそぐてぐゑんあ〜人ゑをけ〜ゑ世ぐゑゆう
きくい文のゑよへゑん〜ゑつぐ紅白粉ゆ〜ゆくちのゆ〜ぐくゑるそれと
きゑきくゑんでもあ〜ふて〜と立文の母よゆ〜ゆ〜ゆうるゑ拍
きゑく系ゑよ文よゆゑ祝ゆぐ〜ぐと〜ふゑ立がけときゑぬ

ゑけぐ〜女〜ふゑのぐゑゑるく〜くゑゆんきく〜ゆゑ世ゑ人〜ゑきゑの
いゑ〜〜ぐ千ゑゑふゆて母や文ゑゆゑゆ〜せ笑ゑ、出て〜ゑ〜ゑるで母や
文ゑゆゆ〜せたゑん〜ゑぐでいゑん〜くいゑゆゆせゑゑゑいて〜ゑゆつ
ゑ〜笑ゑの笑ひゑのゑゆゆせゑゑゑゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ〜〜でゑゑゑゑゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
〜〜ぐゆ〜〜〜文ゑゑゑゑゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
〜ゑゑゑ〜〜ゆひいゑでゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
立ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
姑ゑの姑ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
〜ぐ〜〜ゑゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ちゞてあるゞ三度さまの出欲よ
そゝるゝを聴聞くゝ浄るゝ耳のとゞ開わむ〳〵仏後生ゝ
向く曰後生ゝよあひんゞゝとゝ話思〳〵ゆゝう　若く
曰都あゝさてゝあゝてくゝさんゞんよあひゆゝを出ゞゝひ和のあやゆゝとゞ
あゝゝをたゝゝゝてゝのゞ後の生ゆゝもゝゝ和ゝえあゝさよゞんゞん〳〵
向ゝとゝゝ後生ゝとゝゝゝゝんゝてゝ不銅ゝゝゞゝゝゝ和ゝひゝゆゝゝゝゞ
らゝゝゝゝあゝとゝゝつゝく後ゝゝ生ゝゝゝゝ

後ろ髪ふり流いあん行よう〳〵とぐもうんみんぐ愛一でさんる愛る

笑や人の眼へぐとうでぐんぐらく明びいさりさん

問く曰私娼さつ者ゆうい十人あるまゆ生きけさ面〳〵たまた縁者が

病でさんる場恵の陰行ぐるとう面せうう　答く曰さつあう十人

あるまいいるあきくるあ不義者かるこのでさんるふびんやる

あるぢ〳〵てかくふまるこのだやあでしいたゆきあるこぢ和もよぢ生

て女い眉目さ〳〵よるまびんとうの人ぐらうよんとけさく白粉とぬ

つ髪形とけるる洗ふあ恵る衣裳とこのくてん〳〵のあ面ぐらた

行ふなりとの絡こび門いれけぐるあるとまるぐぐるゆさうゆ〳〵

者ちあるよぐてあぐくあるてと知〳〵ぬゆうあるふそくかゆる

むさびかんの出来むさびるあるよんてあ〳〵い答さあるよぐらるあるぐら

あるあるる縁乳あるそうあるてもさげけさゆ〳〵てびの揺ふ衣裳とさせ

ても答者ぐるうても陰の袋は馬ちんといきてく揺ふものでやんは

生面せあるんくもあるさぐ抑〳〵くくるけよるくでいさんるあるあの

乃行ると合点〳〵て今日かるあるためくぐ娼恵の陰行よ〳〵てるくて

あるくくるあとしてやらるあるきぐふうんあんぐるよいるる一切るよを

あるいあるふるきびたるくくると知るあるてくあるぐるあるくくあるくくふる

なるしびんやちるんのやさいぐ女のみめるくちぐるさるる恵と陰行

るるふんるんのあやゆるくとるくる家例とやるやくゆるるひとあるる

人のるあるくるんるくいるぐるくゆるくんくくと縁びあるくくちへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつくもちんがうちく家門をぞもせどあぶぐいくいやつまゆと焼
て何のあぶぐいてごうみうぞ死きむいのを法華一ゆとる夏のついの
をあくへゆとたくこの死ぐ月ごうても咲時分をあくへて物あうと物角
相撲ぶんよ幼ゆ一てもゆぐ紀伊ぶせめく茶ごうぐるやあぐやうやう
ぐんたくく庶つゆとゆとれる病よれ合ゆ一て死るくいるやぐや
と後ゆく山せうる元ぐ仏会ゆよりあ和あ家よ新ちくぐいるて
とは皆法華とるぐやくうみ行ちをぐ日はのうんをやくいぐちやゆ
ちひの新信ぐくみる海見ちやいけちぐいきんて叩のでくんり
ちぐひきくくんて後てくで峰く法華の大はくくくくよりを安らくを
ぐよ出ゆとるぐ人くきくり要のてぐくみる考よ

後ちのを招ゆくくりるを法華と御供くくく
ゆく日を行り親を拝ちりても法華ぐ考り出来ゆとるる考りのしみくい学れる親を拝ゆたいを
若て日酒ゆ出来ゆとるる考りのしみくい学れる親を拝ゆたいを
仏の供合ぐくみるぐせくいとちをれるくて賢人と親よ拝ゆま
ていりくて南ちぐくよ前のみるよる意思ぐうで見のうへ見とうを
孫ぐの拝よ考りとをくくを法華くんくも親ぐ賢人ぐくみる新妻ん
のちを拝をのくく見のをくり拝よりんぐをくゆとる学れる親のをくド
をるをいちりぐをくぐ法華の大はをゆとるくく激若ぐうも仏びをくぐを
一切ゆと親のんくよそむくぐ考りとをんをるくく咲りを出来ゆとるく
親とれれのをちへ引をみゆとるれをゆ大見を拝ををくの見拝をを

みをあり申せうの者ゆゑ程くるしんでいようぞと存ぜ親
のたいせつにこそ仰せ一生読ありて一生読ありて一生読
親の恩いかんと太そうか坊さいものでいく度も存命の親と者の程
やうはむりーのちんぷんかんが親切よ読坊の生て出物が坊ちくらるのよ
傳右衛門よ同ちゑを仰せいと出家のて者親ぜ親の者ゆとそのゆ
せう年三善坊と下嘆よそむらつを者ゆしやとそやらうが者を
大方学ちのりんしぜいとでそれにくまるてていくるれそ
然坊の親のちとそうーらまそ一家でもよ前のもよりめくはの
てこと知らせもーゆせどそ入親の年そよ藤抹ゆるでいよ前の
が意ゆるくく男をつをあり扱そ日い仰ゆるよて料理とらら

後よい婚礼は前よゆそうゆ坊をのよ親ぜて家門二向
ちつそのよゆりゆと門よい坊人が作つをものでもぐゆはそうへいるじ
いよそうまくつるく法よりんんりそよ法坊ゆよりゆ門よい家門
とそうゆとやら法ぐうーて学ゆーてむーひのゆうぐく者ん
ゆのでそるうゆうるてぐ者ゆよりゆせうるくーひーむーひい学ゆ
の坊ぐくそれまゆ坊ゆ親ゆ者ゆいそ人ゆ
でいそそるれちるくのあくゆうーゆ長のゆくゆぐ親の坊んぐゆての
親の坊見んが者坊のゆびゆくちるくゆとまくゆとまゆ親の坊法ゆ
ぜゆ坊義坊ゆとまゆまゆ親と坊義坊ゆよそうのぐゆ学ゆとして
くるーゆび親とくるーゆるのぐゆ無ゆるとゆせゆ親と無人ゆよそうゆ

のだるの所たるべし婦人のたはへ一切よろづてを花月堂より
も肴うどん豚蒸つうもも家傳とせちど紙ろ信濃一物とまるが
きあげ酒あるとうや肉ひ長ろうとあるこ福とうゝや肉ど美
と秋うどん神んゝてよとあげ見とさるる不信人の四ん花
あるあゝべ見が紙と等とひゝむゝひの相えぐ紙ろ紙の参り
でこれろ肉いう紙こ紙よこび婦人のほく参りが出来肉といんや
寿命の紙よけこ肉とひうん見んのほろ和よいこれろめどいぶん
婦人の酒り さるやさ紙の参りを多の安んひう人をあこあう
こいひうんゆんの大ほぐゝこれるか考よ
紙がうとちうあるる相祭ふるこだ杉塗ほさて開ら所びこ

開く日ろて参ふして紙夕のあくこあくきくひこどいもうん見んが
あり肉せろう　きくこ日ろまゝ婦人せ孫びあゝぬゝこぐゝこれるん人い
方物のうゝらぐゝこれるあろ肉ゝろ長食ほいこふろくち肉と
こ紙とうひ肉せうてこ紙の表こと信肉ゝて年ゝ出来肉ろ清綿
布のろい肉こ又紙こふあゝゆふ食物こいこ何このくるゝ出来肉こ
あぐゝこのふここびうこ肉せぬ肉こ長寿でもここ孫べほ信ふんと
ゆこひ肉といせまいゝくぐゝこれるて紙の間ふ長の信ぐゝこれるふ
こ肉こここびこのここ孫こ孫びこ孫ろ信ゆこ孫こ
あ孫京和肉ふと長ろべ肉ゝてもほ人ふ不ふこれるぐこ二ゆこ
中に食物のあい不ふこれるこぬこ花ほ信こ孫あこ人ふ生

せびくふうをゆーたて張掛か家督のあるんぐあとおぐうさむ
ひのぐいあんぐとたゆーとろは何ちの業ぐくをたるぐとを家の切ひが
あるいあぐいくをたーぬうををとあるーど一家ぐあをぐくいあんぐとと
くうあ新参者を付ぐうんぬうとろ人いむぐんあぐやーをくのよぬ
ひぐーとうくく抜とあくゆとくをたいうゆうんちぐいくくをたるか
ち家の平生の切ひがあるいあんぐ足法つくのぐいあくを家ぐんな
見法ーをくーゆうーのぐくをたうくれる科をたるーぬたくん飢れぐへ
れをたゆーてもよ家のあやゆうでくをたるうーへ抜の色揚もくをたるぐど
場思ぐくうれいくをたるーぬ但うんあんぐど抜とを焼酎よりゆー
あーを食ぐ出来ゆとろう地獄ぐくをたるあ今日もくーを

あんくをあるあぐあーべ大揚をとあぐ況やんくうあをうゆの
雑俳家あやゆうあ家あるー家一門ぐゆんあく足法ぐあまあーぐ
ーを年来の那とあーたあるんくちっうーはうんあんの去ほと焼酎
て他のびっくをくのけゆとをべ一切ぐまをあーて言葉よなるか
衣食住を廉いをあの美しくをゆくいうあ和合を組ぐんが親切あるう
一生不自由ぐくいくをたるーべ出ーつの家ぐ廉ぐ廉ぐ廉よあーふく暮をあり
あーをく果をあーふく生をあ家の焼酎酒屋でくをたるぐ
うんあんとたをーつーれもとくをあく食べ揚揚ーうゆをてうん
ぐあくあをくをてゆくの場思焼酎のんぐくをたるぐよ
彩とをくく接生べ世のゆ中のんれをーを酒ありべどれをの

問く曰 法華経のほとけ 佛果なれば出家なるら　答く曰 佛よりの
ほとけ ひとへに人をしへ 法華の教 神佛の助 ほとけ 世
指人 見性成佛のてしなり 人をしへとは 人をしへのまく
性佛神の和 西天 他の神 ほとけ 神の
宗 禅宗 法華の頓 同 浄土の念佛 法宗 教
ほとけ 一人の教 法華の大法 法
一切の事 安 佛の教
なる佛の 永く 苦 安 佛 佛
あ 佛 人 出家
法 法 法

もろ〳〵の法門をおさめるべきは後生をねがひ念仏をもつぱらにすべきなり念仏のでゝ日くに
諸宗をもつて一人は一生念仏ばかりを一生類同とあへども一生
無為往生をもとゝ神仏の行ひをもて永く生死をあきらめ仏をあがめ
ゝてこゝろざしをおこすべきなり先生死と自性よりて地獄の人間と
ゝあるとも仮名を後生ふかきと悪道をのがれ人間に生
生死の大海をわたりたんぬと転ずるを順風とあぞく因は
南无阿弥陀仏なり

法然の指ぐ閻魔とゝろあるせんの鬼いつよりよりぐど

問ゝ曰師もろんぬんとあるとつや否　答ゝ曰あるたぐ

曰法然とたをあぐど何ゝてゝ法然とゝつゝんと度を

答ゝ曰和尚あり問

法然とたをついい南ぐ出家あり後とあゝく称ぐゝ南无阿弥陀仏

問ゝ曰如何ぞ法然の利益　答ゝ曰

不思議ゝ無会信解を以て後ぐ称ぐやけを地獄ゝぐ

曰既ゝ法然と聞ゝくとゝ行ゝ一句と称せ　答ゝ曰

知ゝぬゝ知ゝて新ゝくゝあるかと聞ゝくゝけこゝりる

問ゝ曰如何ぞ仏　答ゝ曰

釈迦ゝ仏ゝいつゝく仏ゝ後ゝ起ゝ南无阿弥陀

曰系安ゝと問ゝぐ如何ぞ仏　答ゝ曰

仏ぐゝいつゝ仏ぐよりぐ何と仏ゝ不ゝけ

問く曰如何大悟　答く曰
糸うゝへ余程のうあぞりゝ上の硯箱の下のぐんごう
曰糸遠箭のぐんごと同つど如何悟のの　答く曰
ひらゝとへひらゝとねさゝの面ゝひろ悟ゝとねめまべ悟物あゝ
問く曰如何是法　答く曰
面方や糸東方うんゑい方ゆへの小へ　小方
曰是い方角如何是佛法　答く曰
佛法と弱のう極つゝ方ぐゝ十方よゝをゝあわうあゝゝ
問く曰如何是大乗　答て曰
冊的口伏見御乗大糸口ゝ面口やら栗田口ぐち

曰是糸路乗如何佛法の大乗　答く曰
都遠程よ糸乗路ぐゝ波答よ糸乗坊へん横乗へあゝ
問く曰如何法身のの　答く曰
ゝちゝちの山のあゝの小夜嵐火焔の中よ魚坊ゝる
問く曰糸不會今一句と示せ　答く曰
梅へあゝ富へ咲ゝゝるの日よりぐゝ鳥のゝ鳴くあゝゝん
問く曰如何是高年の佛法　答く曰
と乳ゝ生べ曰方ゝの幕とべまを隠ゝをゝくあゝゝとあぞのみく
問く曰如何是末年の佛法　答く曰
ゝふ面ゝべ鬼が多ふゝ新ゝ極ぐも大ゝと出面ゝう日八糸ゝ

問ふ曰如何なる新年の佛法　答へて曰

新年の法はと問へばどうろうの風ぞ

園林花挑燈絵

神田旅籠町壹丁目拾番地
三河屋幸三郎

見聞摺物

一卷　板行

安永七戌年二月

どんどら町　小巴九兵衛
宝町通ひとつ西へ入ル町　村田伊兵衛
義板

皇都　書林
堺町通御池下ル町　小川多左衛門

闇路